

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果について【中学校】

宇都宮市教育委員会

各種学力調査を有効に活用して児童生徒の学力向上を図るためには、調査結果を分析して児童生徒の学力や学習状況等についての成果や課題を明らかにした上で、課題の解決に向けて学習指導の工夫・改善を図ることや実効性のある取組を見いだし実践することが大切です。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本市立中学校生徒の学力や学習状況の概要、指導の改善策などをまとめました。

参考：「とちぎっ子学習状況調査」について

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善（学力向上PDCA）サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日・調査対象 令和7年4月17日（木） 第2学年

3 調査内容

（1）教科に関する調査

- ① 調査教科 国語・社会・数学・理科・英語
- ② 出題範囲 調査する学年の前学年までの学習内容
- ③ 出題内容 学習指導要領に基づき、教科の目標及び内容に即した知識及び技能、思考力・判断力・表現力等に関わる内容



（2）質問調査

※ICT端末を用いたオンライン方式にて実施

- ① 生徒質問調査 学習意欲、学習方法、学習環境、家庭学習等に関すること
- ② 学校質問調査 指導に関する取組や学習環境等に関すること 等

4 本市の参加状況

- （1）学校数 宇都宮市立中学校 25校（25校中）
- （2）生徒数 国語 3,742人 社会 3,746人 数学 3,750人 理科 3,751人 英語 3,755人

5 留意事項

（1）調査結果について

本調査は、対象となる学年や実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

（2）教科に関する調査について

- ① 調査結果のデータについては、本市の傾向等を示すために、教科全体及びカテゴリー別の平均正答率、正答率度数分布を示した。
- ② 平均正答率等の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「傾向と課題」「指導の工夫・改善」等の分析を併せて記載した。
 - ・ 「傾向と課題」は、領域等ごとに良好な状況や課題が見られた設問の状況を記載した。
 - ※「良好な状況が見られるもの」と「課題が見られるもの」は、正答率が県平均より高い（低い）設問などを基に考察した。
 - ・ 「指導の工夫・改善」は、調査結果に見られた課題を解決するため、今後の学習指導において参考となるポイントを中心に記載した。

（3）質問調査について

本市の推進する教育施策と関連の深い質問及び県との比較において本市の特徴が見られる質問を取り上げて、調査結果と傾向、考察を示すとともに、指導の工夫・改善のポイントを記載した。

1 中学校第2学年 国語

平均正答率

(%)

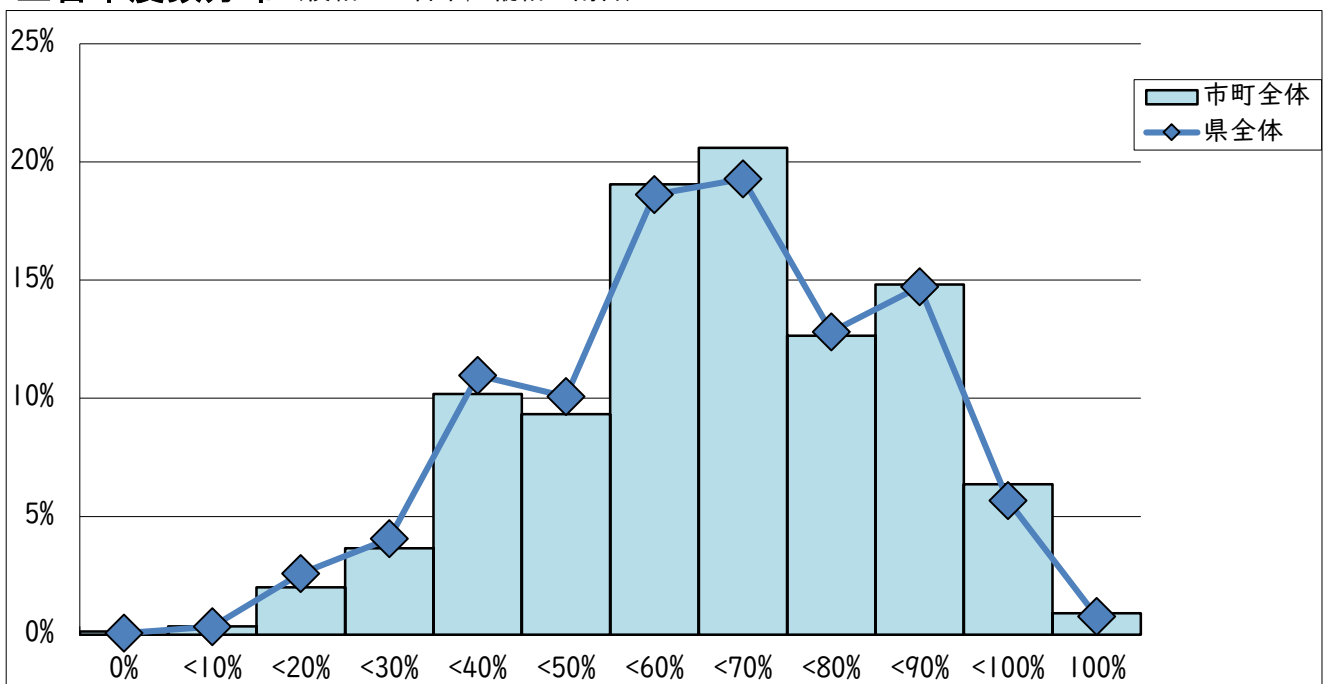
	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立） b	差 a - b
教科全体	61.6	60.6	1.0

カテゴリー別集計結果

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	差 a-b
領域等別	言葉の特徴や使い方に関する事項	64.5	62.3	2.2
	我が国の言語文化に関する事項	48.7	41.1	7.6
	話すこと・聞くこと	72.1	71.2	0.9
	書くこと	43.1	48.5	△5.4
	読むこと	63.9	61.8	2.1
観点別	知識・技能	62.9	60.1	2.8
	思考・判断・表現	60.8	60.8	0.0

正答率度数分布（横軸：正答率，縦軸：割合）



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

言葉の特徴や使い方に関する事項 (県平均との差 2.2 ポイント)

- 漢字の読み書きに関する設問の正答率は 67.6% で、県平均を 2.1 ポイント上回る。漢字を正しく読んだり、書いたりすることに良好な状況が見られる。

我が国の言語文化に関する事項 (県平均との差 7.6 ポイント)

- 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して書く設問の正答率は 48.7% で、県平均を 7.6 ポイント上回る。歴史的仮名遣いを読むことに良好な状況が見られる。

話すこと・聞くこと (県平均との差 0.9 ポイント)

- 話合いで意見を提案する際の話し方として適切なものを選ぶ設問の正答率は 86.6% で、県平均を 1.0 ポイント上回る。話の展開を捉えることに良好な状況が見られる。
- 話し合われた内容をまとめ書く設問の正答率は 22.0% で、県平均とほぼ同等である。話題や展開を捉え、互いの発言を結び付けて考えをまとめることに課題が見られる。

書くこと (県平均との差 Δ5.4 ポイント)

- 指定された長さや二段落構成という条件で文章を書くことの正答率は 49.2% で、県平均を 5.7 ポイント下回る。段落の役割を理解し、段落ごとに必要な情報を書き表すことに課題が見られる。
- 資料から読み取れることを書く設問の正答率は 45.2% で、県平均を 5.7 ポイント下回る。二つの資料の内容を関係付けて書くことに課題が見られる。

読むこと (県平均との差 2.1 ポイント)

- 登場人物の心情として適切なものを選ぶ設問の正答率は 71.1% で、県平均を 2.6 ポイント上回る。描写を基に人物の心情の変化を捉えることに良好な状況が見られる。

指導の工夫・改善

話すこと・聞くこと

話合いにおいて重要なことは、話合いを円滑に進めながら、互いの発言を踏まえて、考えをまとめたり広げたり深めたりすることである。効果的に話合いを進めるためには、事前に何について話し合うかを明確にするとともに、話題や展開を捉え、互いの立場や考えを尊重しながら話し合うことが大切である。また、互いの発言を踏まえるためには、互いの考えを比較しながら聞くことや、つなぎ言葉を使って話すことが必要であり、これらを生徒が実践できるようよう指導することが重要である。

書くこと

文章を書く設問では、二つの異なるグラフが示され、それらの資料から読み取れることをまとめて書く課題が設定された。資料を読み取るには、文章やグラフに含まれている情報を取り出し、原因と結果、意見と根拠、具体と抽象などに整理して関係を捉えることが必要である。また、資料から読み取れることをまとめて書くには、整理した情報の中から、関連する情報と情報とを関係付けて示すことが求められる。そのため、指導の際には、どのような視点で情報を整理することが適切か、どのような視点から情報と情報とを関係付けることができるかなどについて、思考したことを表や図を使いながらまとめた上で文章化していく授業展開が有効である。

2 中学校第2学年 社会

平均正答率

(%)

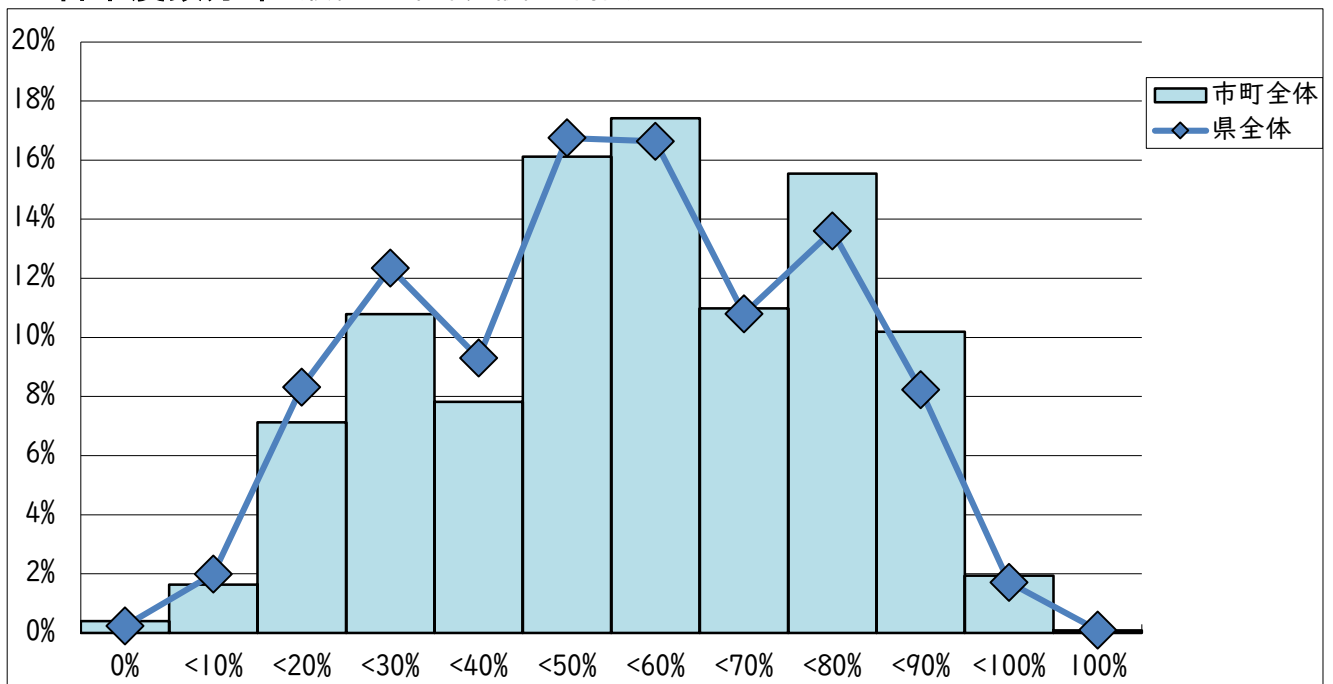
	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立） b	差 a - b
教科全体	52.8	50.3	2.5

カテゴリー別集計結果

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	差 a-b
領域等別	地理	58.7	56.6	2.1
	歴史	45.4	42.4	3.0
観点別	知識・技能	50.7	48.2	2.5
	思考・判断・表現	56.9	54.4	2.5

正答率度数分布（横軸：正答率，縦軸：割合）



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

地理的分野（県平均との差 2.1 ポイント）

- 日本とイタリアを比較した3つの資料から、イタリアが地中海性気候に属し、正しい特徴を表している文を選択する設問の正答率は64.5%で、県の平均を4.3ポイント上回る。温帯の気候とその地域の特色に関する基礎的・基本的な知識の定着について良好な状況が見られる。
- 東南アジアの国々の統計情報をまとめた表から読み取れる内容について、正しい文を全て選択する設問の正答率は20.4%であり、統計資料について複数の項目を関連付け、比較しながら情報を読み取る技能に課題が見られる。

歴史的分野（県平均との差 3.0 ポイント）

- 遣唐使の派遣が停止された理由について、唐の勢力の衰えや使節派遣の危険性について述べている文を選択する設問の正答率は62.6%で、県平均を3.4ポイント上回る。資料から読み取れる適切な内容を考察する力に良好な状況が見られる。
- 古代と中世を表した資料を基に、中世の日本の学習において作った学習課題について適切に述べた文を選択する設問の正答率は62.6%で、県平均を2.3ポイント上回る。複数の資料から変化を読み取り、考察する力に良好な状況が見られる。
- 桓武天皇が行った軍隊の派遣と建設事業について、複数の時代を表した地図資料と建設物の名称から、適切なものをそれぞれ選択する設問の正答率は7.8%であり、各時代の事象に関する知識の定着と活用に課題が見られる。

指導の工夫・改善

地理的分野

単元を貫く学習課題を設定し、予想や見通しを立てて課題を追究したり解決したりする活動を通して、地形図や主題図、図表やグラフなどの様々な資料から、課題の解決に必要な情報を読み取りながら、知識と技能を一体的に身に付けたり、地理的な見方・考え方を働かせて考察したりして表現する学習活動を充実させることが重要である。特に、個別の知識の統合を促し、単元の学習内容について概念的に理解することができるよう、説明や議論、または振り返る学習活動を計画的に設定し、指導と評価の充実を図ることが大切である。

歴史的分野

社会的事象を時期や推移などに着目して、社会の変化の様子について比較や相互を関連付けて捉え、歴史の大きな流れの中で理解することができるよう、生徒が、歴史的な見方・考え方を働かせられる適切な問いと資料を提示し、思考力・判断力・表現力等を育成する学習活動の充実を図ることが大切である。

3 中学校第2学年 数学

平均正答率

(%)

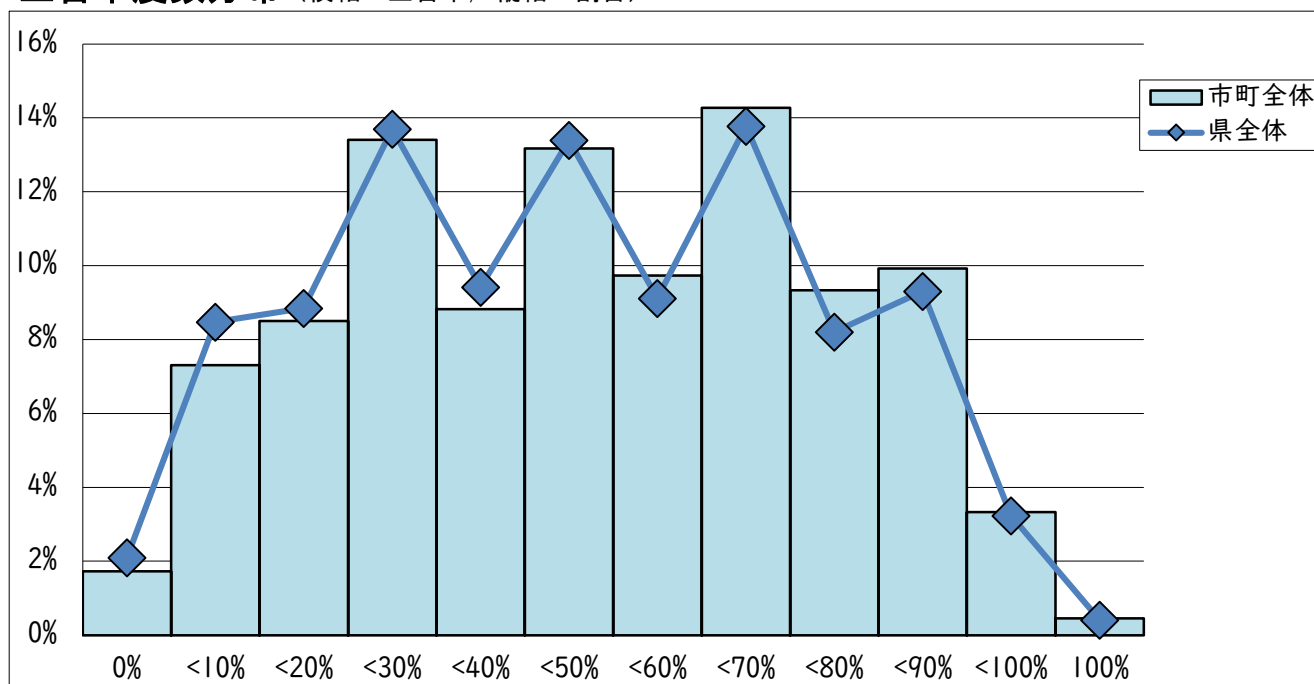
	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立） b	差 a - b
教科全体	46.7	45.2	1.5

カテゴリー別集計結果

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	差 a-b
領域等別	数と式	49.7	47.6	2.1
	図形	49.2	47.7	1.5
	関数	38.0	36.8	1.2
	データの活用	49.6	48.5	1.1
観点別	知識・技能	54.0	52.5	1.5
	思考・判断・表現	35.8	34.1	1.7

正答率度数分布（横軸：正答率，縦軸：割合）



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

数と式 (県平均との差 2.1 ポイント)

- 前日の最低気温について、正しい計算をしている式を選ぶ設問の正答率は 48.7%であり、県平均を 3.3 ポイント上回る。求めたい数量や式が表す意味を考えることに良好な状況が見られる。
- 与えられた情報をもとに、数量の関係や法則などを文字を用いた式で表す設問の正答率は 17.5%であり、県平均を 1.4 ポイント上回るが、無解答率が 23.2%で県平均を 0.4 ポイント上回る。考え方が示された、規則的に変化する図の意味を読み取り、立式することに課題が見られる。

図形 (県平均との差 1.5 ポイント)

- 回転移動したときに重なる図形を選ぶ設問の正答率は 76.5%であり、県平均を 3.1 ポイント上回る。図形をある点を回転の中心として一定の角度だけ回転させる移動の意味の理解に良好な状況が見られる。

関数 (県平均との差 1.2 ポイント)

- 道のりが一定で、速さが変わる場合について、反比例を用いて答えを求める設問の正答率は 49.0%であり、県平均を 1.6 ポイント上回る。比例、反比例の関係について式を用いて表すことに良好な状況が見られる。
- 比例のグラフの直線が途中で止まっている理由を、 y の変域を示して説明する設問の正答率は 12.7%であり、県平均を 1.1 ポイント上回るが、無解答率は 36.4%であり、教科全体の中で最も低い。具体的な事象において、変域を意識しながら事象を捉え考察し表現することに課題が見られる。

データの活用 (県平均との差 1.1 ポイント)

- 度数分布表から、ある階級の相対度数や累積度数を求める設問において正答率が、県平均を 1.4~2.7 ポイント上回る。データの傾向を読み取る際に用いる用語の意味の理解に良好な状況が見られる。

指導の工夫・改善

数と式

規則性を見出して数量の関係を式で表す学習では、多様な考え方を文字を使って表すという活動を通して、自分の思考の過程を表現し、他者に的確に伝達できるという文字を用いた式のよさを実感し、必要性や意味を理解できるようにすることが大切である。また、式を解釈する力を育む上で、他者が立てた式について考え、説明する活動を取り入れるなど指導の工夫も必要である。

関数

関数についての思考力・判断力・表現力等を深めるために、日常生活や社会の事象とのつながりを意識させ、変化や対応の様子を実感させることが必要である。その上で、関数関係に着目し、その特徴を表・式・グラフを相互に関連づけて考察できるように指導し、目的に応じて数学的表現を適切に選択できるようにすることが大切である。その際、具体的な事象においては、変域を意識しながら事象を捉え、考察し表現できるようにすることが重要である。

4 中学校第2学年 理科

平均正答率

(%)

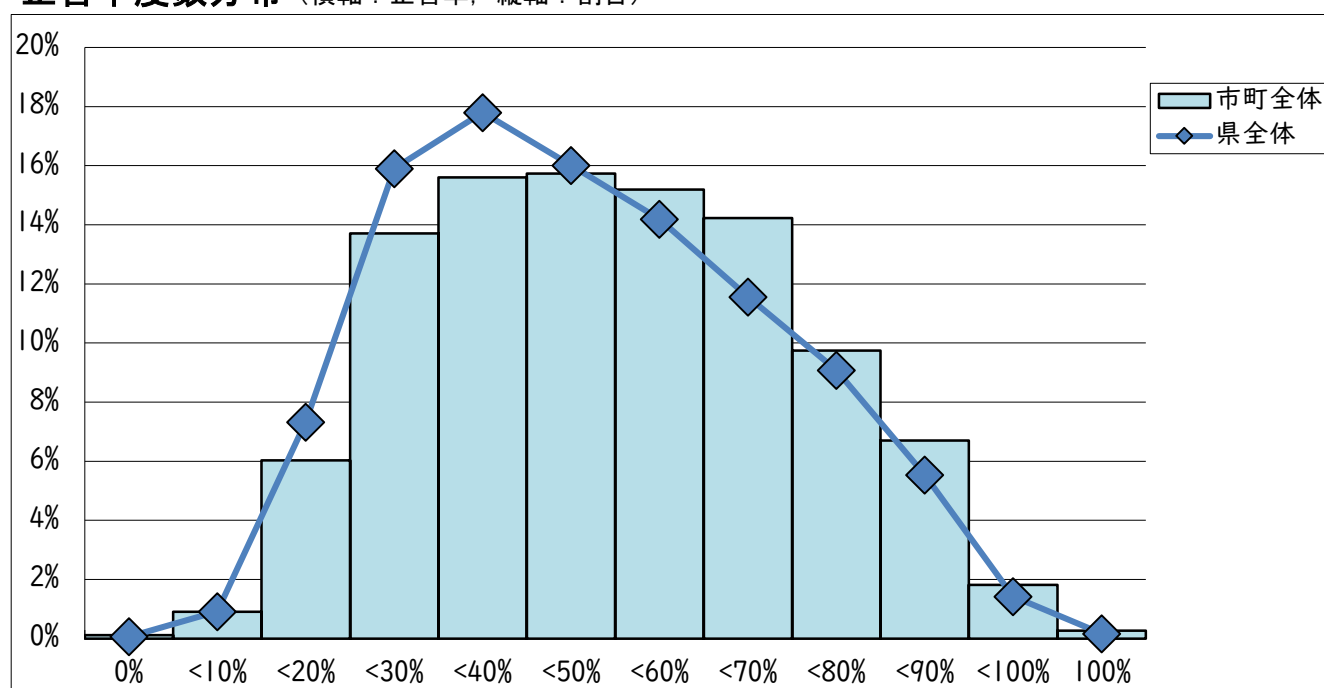
	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立） b	差 a - b
教科全体	49.5	46.8	2.7

カテゴリー別集計結果

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	差 a-b
領域等別	「エネルギー」を柱とする領域	52.7	50.5	2.2
	「粒子」を柱とする領域	48.3	44.9	3.4
	「生命」を柱とする領域	67.6	64.4	3.2
	「地球」を柱とする領域	34.4	32.3	2.1
観点別	知識・技能	50.7	47.6	3.1
	思考・判断・表現	47.6	45.6	2.0

正答率度数分布（横軸：正答率，縦軸：割合）



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

「エネルギー」を柱とする領域（県平均との差 2.2 ポイント）

- 実像の名称を答える設問の正答率は 65.7%で、県平均を 4.4 ポイント上回る。実像についての理解に良好な状況が見られる。

「粒子」を柱とする領域（県平均との差 3.4 ポイント）

- 状態変化の名称を答える設問の正答率は 77.9%で、県平均を 3.6 ポイント上回る。状態変化についての理解に良好な状況が見られる。
- 二酸化炭素を発生させる方法と確かめる方法の組み合わせを選ぶ設問の正答率は 65.7%で、県平均を 4.5 ポイント上回る。気体の発生方法と確かめる方法についての理解に良好な状況が見られる。
- 食塩の水溶液のモデルを選ぶ設問の正答率は 17.3%であり、水溶液のモデルでの表し方についての理解に課題が見られる。

「生命」を柱とする領域（県平均との差 3.2 ポイント）

- 脊椎動物の共通点と差異点に着目し、分類の観点を選ぶ設問の正答率は 85.2%で、県平均を 3.3 ポイント上回る。脊椎動物の体の表面の様子や子の生まれ方等の特徴を分類の観点や基準にすると、分類できることについての理解に良好な状況が見られる。

「地球」を柱とする領域（県平均との差 2.1 ポイント）

- 震度とマグニチュードの違いをまとめた文章を完成することについての設問の正答率は 37.3%で、県平均を 6.5 ポイント上回る。震度とマグニチュードの違いの理解に良好な状況が見られる。
- 緊急地震速報と地震の揺れの伝わり方を結び付けて考え、震源からの距離を選ぶ設問の正答率は 13.4%で、教科全体の中で最も低い。緊急地震速報と地震の揺れの伝わり方を結び付けて思考することに課題が見られる。

指導の工夫・改善

「粒子」を柱とする領域

小学校では第5学年で、水溶液の中では、溶けている物が均一に広がることを学習していることを踏まえ、物質の水への溶解を粒子のモデルを用いて微視的に捉えさせるようにするとともに、粒子のモデルで均一になる様子について説明させるなど、指導方法を工夫することが大切である。

「地球」を柱とする領域

地震の揺れの伝わり方については、震源からの距離の異なる場所に置かれた地震計の記録を基に揺れの伝わる速さを推定させたり、地震の揺れがほぼ同心円状に伝わることを捉えさせたりすることが大切である。一般に震度は、震源からの距離によって異なることなどの規則性にも気付かせ、初期微動継続時間の長さが震源からの距離に関係していることにも触れ、「緊急地震速報」との関連にも触れることが有効である。

5 中学校第2学年 英語

平均正答率

(%)

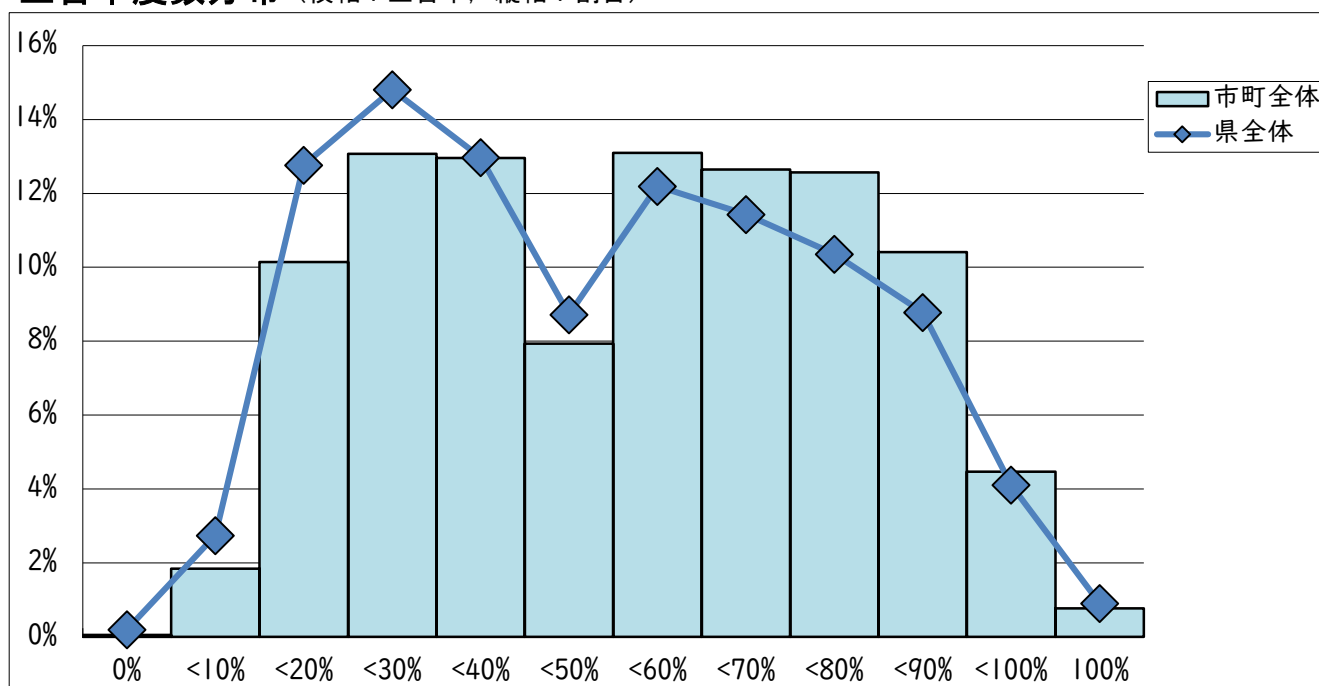
	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立） b	差 a - b
教科全体	51.5	48.2	3.3

カテゴリー別集計結果

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	差 a-b
領域等別	聞くこと	55.8	53.5	2.3
	読むこと	56.0	53.8	2.2
	書くこと	45.6	40.9	4.7
観点別	知識・技能	54.3	50.2	4.1
	思考・判断・表現	42.9	42.1	0.8

正答率度数分布（横軸：正答率，縦軸：割合）



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

聞くこと (県平均との差 2.3 ポイント)

- 場所を表す英文を聞き取る設問の正答率は 88.0%で、県平均を 15.8 ポイント上回る。また、対話の内容を聞き取り、適切に応答しているものを選ぶ設問の正答率は 71.3%で、県平均を 1.3 ポイント上回る。必要な情報を聞き取ることや聞き取った英語の内容を正確に把握することに良好な状況が見られる。
- 日付を質問する英文を聞き取る設問の正答率は 45.6%で、県平均を 1.2 ポイント下回る。似たような音声の違いを聞き取り、正確に把握することに課題が見られる。

読むこと (県平均との差 2.2 ポイント)

- 対話から情報を正確に読み取る設問の正答率は 70.2%で、県平均を 1.3 ポイント上回る。また、日常的な話題の対話を読み取り適切なグラフを選択する設問の正答率は 62.4%で、県平均を 2.3 ポイント上回る。正確に英文を読み取ることや必要な情報を捉えることに良好な状況が見られる。

書くこと (県平均との差 4.7 ポイント)

- 対話が成り立つように、与えられた語を適切な形で書く設問の正答率は 73.8%で、県平均を 8.8 ポイント上回る。また、対話文が適切になるよう与えられた語を並べ替えて書く設問の正答率は 65.3%で、県平均を 4.7 ポイント上回る。文脈に応じて、適切な語形を書くことや英文を正しい語順で書くことに良好な状況が見られる。
- 読んだことについて自分の考えを整理し、まとまりのある英文を書く設問では正答率は 7.8%で、県平均を 1.6 ポイント下回る。また、無解答率が 3 割を超えており、正答率よりも高くなっている。状況を捉えて、必要な表現を判断し書くことや書くことへの意欲に課題が見られる。

指導の工夫・改善

聞くこと

聞くことの指導にあたっては、場面設定等を工夫しながら、聞くことへの意欲を高める工夫や、場面や状況を明確にし、聞き取るポイント等を示すことが有効である。また、聞いた後に文字を提示し、音声の違いを意識させ音読させることや、聞いたことをもとに、話すことや書くことと結び付けるなど、技能統合的な言語活動に継続的に取り組ませる指導が必要である。

書くこと

書くことの指導にあたっては、何のために、誰に向けて書くかなど、目的や相手を明確にすることで、書くことへの意欲を高めていくことが必要であり、書く前に意見や考えについてやり取りを行ったり、書く内容のアイディアを整理する時間を設けたりすることで、自分の考え等をまとめ、英文で表現することへつなげることが有効である。その際、読み手に配慮しながら、内容のつながりや構成の工夫などへの意識をもち、まとまりのある文章を書くことに取り組ませる指導が必要である。

6 中学校質問調査

【生徒質問調査】

調査結果（全 113 問から抜粋）

- ・ 本市の推進する取組と関連のあるもの、又は、県平均と 3 ポイント以上差があり本市生徒の特徴を表すものを取り上げた。（教科等別の学習に関する質問を除く）
- ・ 肯定的な回答の割合は、「はい」「どちらかといえば、はい」と回答した割合の合計である。

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合	
		宇都宮市	県平均との差
1	授業を集中して受けている。	91.5%	0.2
2	学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。	63.3%	1.2
3	勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。	76.1%	2.8
4	勉強していて、「不思議だな」「なぜだろう」と感じることもある。	82.8%	0.5
5	学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う。	93.9%	4.2
6	授業では、授業の目標（めあて・ねらい）が示されている。	96.9%	△0.1
7	授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いている。	88.2%	△2.3
8	授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。	79.6%	△1.8
9	グループなどでの話合いに自分から進んで参加している。	78.5%	0.5
10	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。	45.3%	1.5
11	授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しくない。	33.3%	△2.4
12	家で、学校の授業の復習をしている。	70.4%	△0.5
13	家で、学校の授業の予習をしている。	46.4%	4.7
14	家で、自分で計画を立てて勉強をしている。	67.6%	1.5
15	家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。	59.6%	4.0
16	家で、テストで間違えた問題について勉強をしている。	65.4%	2.8
17	学校の授業時間以外の普段（月～金曜日）、1 日当たりの勉強時間（学習塾や家庭教師を含む） ※2 時間以上	24.2%	1.8
18	自分には、よいところがあると思う。	82.5%	2.2
19	自分のよさを人のために生かしたいと思う。	92.9%	1.4
20	難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。	66.2%	1.3
21	自分の行動や発言に自信をもっている。	54.2%	2.3
22	地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある。	70.1%	3.7
23	先生は学習のことについてほめてくれる。	87.2%	3.2
24	家の人、ほめてもらいたいことをほめてくれる。	83.1%	2.3
25	家の人と将来のことについて話すことがある。	69.0%	3.3
26	家の人と学習について話をしている。	84.5%	5.8
27	普段（月～金曜日）、1 日当たりのテレビゲームをする時間 ※1 時間未満	26.6%	0.4
28	普段（月～金曜日）、1 日当たりの携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間 ※1 時間未満、持っていない	46.7%	△0.3

傾向と考察

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

学ぶ意欲・授業について (No. 1～No.11)

- No. 1 の肯定的な回答の割合は90%以上であり、特に高い。学習規律の維持徹底を図る指導が行われているものと考えられる。
- No. 3～5 の肯定的な回答の割合は県平均と同程度または上回っている。学ぶことに興味をもち、自己のキャリアや生活に生かそうとするなど、生徒の知的好奇心を大切にした指導や、学習への有用感を高める指導が工夫されているものと考えられる。
- No. 2, 9 の肯定的な回答の割合は県平均を上回っている。グループ活動などの学習を取り入れ、生徒が互いに話し合い、進んで学習に取り組む指導が推進されているものと考えられる。
- No. 7, 8 の肯定的な回答の割合は県平均を下回っている。授業の導入時に本時の授業で学ぶことを生徒と共有し見通しを持たせるとともに、振り返りを計画的に行い、生徒自身が学びや自己の変容を改めて確認する機会が必要であると考えられる。
- No. 10, 11 の肯定的な回答の割合は50%未満に留まっているとともに、No. 11 については県平均を下回っている。自分の考えを話したり書いたりして表現する力を育む指導を工夫する必要がある。

家庭学習について (No.12～No.17)

- No. 13～17 の肯定的な回答の割合は県平均より高い。家庭学習に主体的に取り組む態度を育むための指導が推進されているものと考えられる。

自分自身のこと・家の人や先生について (No.18～No.26)

- No. 18～21 の肯定的な回答の割合は県平均より高い。No. 19 の肯定的な回答の割合は、90%以上と、特に高い。挑戦したり達成感を味わったりすることができる教育活動を取り入れるなど、生徒のよさや努力を認め、励ます指導が推進され、自己肯定感が高まっているものと考えられる。
- No. 24～26 の肯定的な回答の割合は県平均より高い。キャリアに関する指導や学習の充実に向けた指導が、家庭と連携・協力しながら進められているものと考えられる。

毎日の生活について (No.27, 28)

- No. 28 の携帯電話やスマートフォンの使用時間について、1日に1時間未満の生徒の割合は県平均をやや下回っている。「スマホ・ケータイ宮っ子ルール共同宣言」に基づく取組等により、節度のある使用についての指導の工夫が必要であると考えられる。

【学校質問調査】

調査結果（全 67 問から抜粋）

- ・ 本市の推進する取組と関連のあるもの、又は、県平均と 10 ポイント以上差があり本市の特徴を表すものを取り上げた。（本調査問題及び全国学力・学習状況調査問題の活用に関する質問を除く）
- ・ 肯定的な回答の割合は、「はい」「どちらかといえば、はい」と回答した割合の合計である。（No. 9～14 の肯定的な回答の割合は、「学校全体で」「どちらかといえば、学校全体で」の割合の合計）

＜生徒の様子＞

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合	
		宇都宮市	県平均との差
1	生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いている。	96.0%	2.5
2	生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができている。	100%	4.6
3	生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかり伝えることができている。	88.0%	△2.9
4	生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	88.0%	2.9

＜学校の取組＞

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合	
		宇都宮市	県平均との差
5	生徒の様々な考え方を引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている。	100%	1.3
6	自分の考えを文章にまとめる指導（記述）を重点的に行っている。	88.0%	1.0
7	授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れている。	100%	11.7
8	「ねらい」「指導」「評価」のつながりを意識した授業づくりを行っている。	100%	0.7
9	宿題の出し方について教員間で情報交換している。	60.0%	△8.2
10	生徒の実態を把握して、宿題を出している。	64.0%	△3.5
11	やり方を生徒に十分説明して、宿題を出している。	76.0%	7.8
12	宿題について、評価・点検の仕方を教職員間で情報交換している。	64.0%	△4.2
13	生徒が自主的に取り組むような宿題を出している。	72.0%	9.0
14	宿題の意図について保護者へ説明をしている。	84.0%	13.9
15	教職員間で、互いの授業を見せ合っている。	96.0%	9.0
16	教科の枠を超えて学年などの小集団で授業研究を行うなど、組織的に授業づくりに取り組んでいる。	88.0%	0.3
17	授業研究を伴う校内研修の回数 ※4回以上	52.0%	△0.6
18	本調査実施後、調査対象学年の生徒に対して、全てまたは一部調査問題を解かせることで、課題の改善状況を確認している。	76.0%	△7.8
19	本調査実施後、調査対象学年の1学年下の生徒に対して、全てまたは一部調査問題を解かせることで、習得状況を確認している。	48.0%	△22.1
20	調査結果の分析を全教職員で行っている。	76.0%	△14.9

傾向と考察

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

生徒の様子 (No. 1～4)

- No. 1, 2 の肯定的な回答の割合は 90%以上と、特に高く、県平均を上回っている。話の聞き方や発言の仕方などの学習規律の徹底について、学校全体での組織的な指導が推進されているものと考えられる。

授業における学習指導 (No. 5～8)

- No. 5, 7, 8 の肯定的な回答の割合は 100%であり、特に高い。言語活動の充実を図り、主体的に問題発見・解決に取り組む態度の育成に向けた指導が推進されているものと考えられる。
- No. 8 の肯定的な回答の割合は 100%であり、指導と評価の一体化を念頭においた授業づくりが意識されているものと考えられる。
- No. 6 の肯定的な回答の割合は 88.0%であり、県平均を 1.0 ポイント上回っているが、引き続き、自分の考えを整理し、書いてまとめることで、表現する力を育む指導の充実を図っていく必要がある。

家庭学習の指導 (No. 9～14)

- No. 9, 10, 12 の肯定的な回答の割合は県平均を下回っており、No. 9 は下回り方が大きい。宿題や課題について教科間で共有し、内容や評価について確認するなど、生徒の負担に配慮していくことが必要になると考えられる。

校内研修の充実 (No.15～17)

- No. 15 の肯定的な回答の割合は県平均より 9 ポイント上回っている。教員同士が互いに授業を見せ合う取組が定着しているものと考えられる。
- No. 17 の校内研修を 4 回以上実施する割合は県平均より 0.6 ポイント下回っている。教科の枠を超えた小集団での授業研究を工夫するなど、校内で共通の課題を解決するために、組織的な授業づくりの推進が必要となる。

学力調査の活用 (No.18～20)

- No. 18～20 の肯定的な回答の割合は、県平均を大きく下回っている。全教職員で調査結果を分析し、学習内容の習得状況を把握したり、校内の課題の改善状況を確認したりするなど、検証サイクルを回していく必要がある。